

学習状況調査（児童・生徒質問紙）の分析結果

（１） 基本的な生活習慣

「朝食を毎日食べていますか」、就寝・起床時刻については、昨年同様、全体的に小中学生ともに好ましい状況にある。

本市の小中学生は、基本的な食習慣や規則正しい起床ができるなどの基本的な生活習慣が、全国に比較してよりよく定着していることを確認することができた。起床時刻に比べると就寝時刻が安定していないことが昨年度に引き続き課題として挙げられるが、小学生の就寝時刻については、昨年度に比べ約5ポイント上回った。

今後も規則正しい生活習慣の大切さを児童生徒に指導するとともに、家庭にも引き続き啓発を行い、現在の好ましい生活習慣を継続させていくことが望まれる。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(1)	朝食を毎日食べていますか	96.2	95.5	93.9	93.3
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	85.0	80.1	72.9	75.2
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.3	90.8	92.0	92.3

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

（２） 学習時間等

〈家庭学習の時間について〉

「平日勉強をしている時間」「学校が休みの日に勉強をしている時間」は、小学生では、1時間以上が平日約69%（昨年比4ポイント減）、休日約28%（昨年比1ポイント減）、中学生では、平日約75%（昨年比3ポイント減）、休日約45%（昨年比10ポイント減）という状況であった。今年度の数値は、昨年度同様、全国平均を上回っており、本市の児童・生徒の家庭学習時間は確保できているといえる。しかしながら、昨年度と比べると減少している。小学生の休日の家庭学習時間については、30%を下回っているため引き続き啓発が必要と考えられる。また「宿題をしている」で小学生が全国平均を下回った。

「学習塾に通っている合計」は、小中学校ともに昨年度より2ポイント程度増加している。通塾率が上昇しても、学習時間が減少していることは、塾の学習のみを家庭学習としていることや、塾に通っていない児童生徒との格差が生じていることが考えられる。小中学校とも学校での授業内容に関連した宿題を出し、継続的に指導することが必要である。

〈授業の予復習等について〉

「授業の復習をしていますか」「授業の予習をしていますか」は、「している」「どちらかといえば、している」の合計は、昨年度に引き続き小中学生ともに全国平均を上回った。特に、小中学校とも復習の時間が小学校で7ポイント、中学校で11ポイント全国平均を上回っており、本市の小中学生は、学校での学習を家庭においても復習し、学習内容の定着を図っていると考えられる。

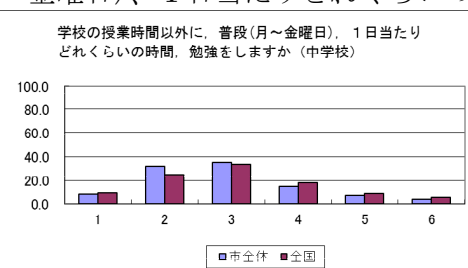
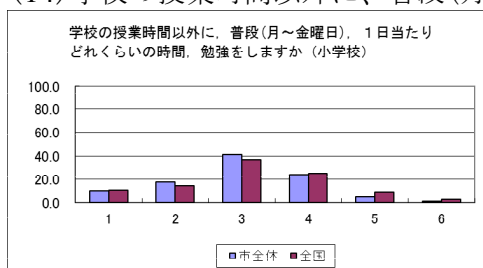
今年度も、本市の小中学生の学習時間は確保されており、家庭学習の習慣化がより図られていることがわかる。

今後とも、家庭での勉強時間が「30分より少ない」小中学生が、意欲的に取り組めるような課題の出し方も含めて研究し、継続的に指導していくことが必要である。

① 〈家庭学習の時間について〉

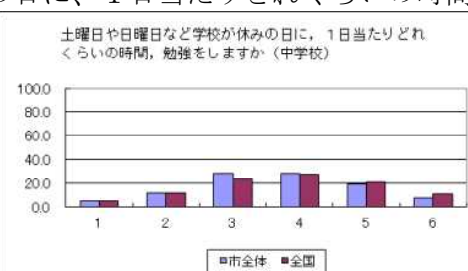
質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(14)	学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか （学習塾や家庭教師含む）＊1時間以上の合計	68.7	62.5	74.9	67.9
(15)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか （学習塾や家庭教師含む）＊2時間以上の合計	28.4	24.2	45.2	40.1
(16)	学習塾（家庭教師含む）で勉強をしていますか ＊学習塾に通っている合計	53.8	45.9	65.2	61.0

(14) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



- 〈選択肢項目〉
- 3時間以上
 - 2時間以上、3時間より少ない
 - 1時間以上、2時間より少ない
 - 30分以上、1時間より少ない
 - 30分より少ない
 - 全くしていない

(15) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



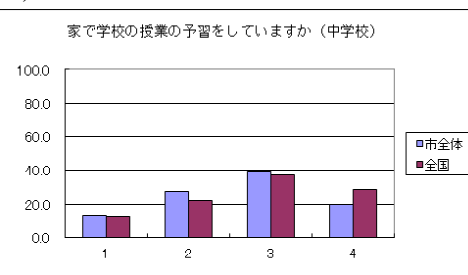
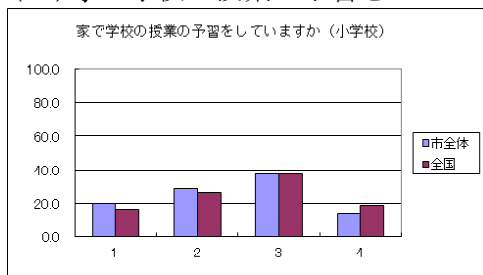
- 〈選択肢項目〉
- 4時間以上
 - 3時間以上、4時間より少ない
 - 2時間以上、3時間より少ない
 - 1時間以上、2時間より少ない
 - 1時間より少ない
 - 全くしていない

② 〈授業の予復習等について〉

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(22)	家で学校の宿題をしていますか	98.7	97.0	89.2	90.1
(23)	家で学校の授業の予習をしていますか	48.5	43.3	40.2	34.2
(24)	家で学校の授業の復習をしていますか	62.7	55.2	62.7	51.0

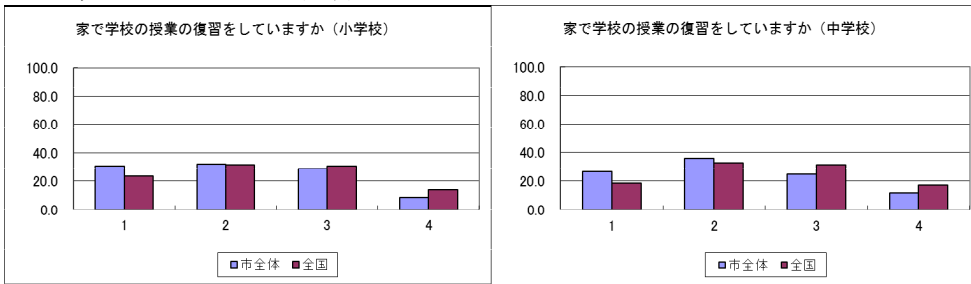
※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(23) 家で学校の授業の予習をしていますか



- 〈選択肢項目〉
- している
 - どちらかといえば、している
 - あまりしていない
 - 全くしていない

(24) 家で学校の授業の復習をしていますか



- <選択肢項目>
- 1 している
 - 2 どちらかといえば、している
 - 3 あまりしていない
 - 4 全くしていない

(3) 国語、読書、算数・数学について

国語の勉強（質問番号(61)～(63)）については、小中学生とも全国平均を上回り、良好な結果となった。今年度も「国語の勉強は好きですか」が全国平均を上回り、昨年度より小学校で5ポイント以上、中学校で1ポイント以上上昇した。「国語の授業の内容はよく分かりますか」についても全国平均を上回り、わかりやすい授業が展開されていると考えられる。

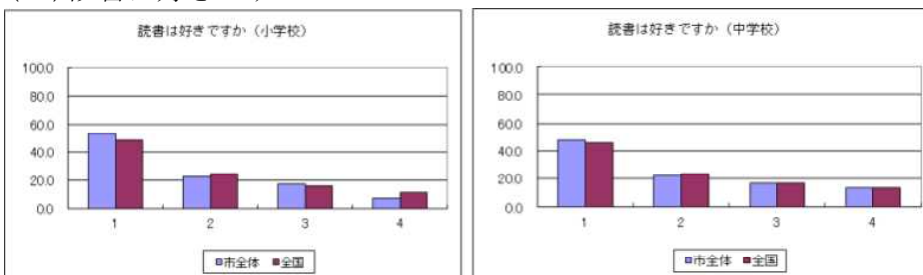
「読書は好きですか」は、小学校では昨年度よりも数値が5ポイント程度上がり、全国平均を上回った。しかし中学校では昨年度と数値は一緒だが、全国平均を2ポイント下回った。特に中学校においては、読書をほとんどしない割合も増加している。本に親しむ生徒を育成するため、読書の時間をいかに設定するか、より工夫した取組が必要である。

算数（数学）の勉強（質問番号(71)～(73)）については、中学校の「算数（数学）の勉強は好きですか」で、若干全国平均を下回った。しかし中学校の学力テストの結果はA問題（「知識」）、B問題（「活用」）ともに全国平均を上回っている。指導の工夫や授業の改善等から、算数（数学）を好きにさせる工夫をすることで、更なる学力の伸びにつながるものとする。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(61)	国語の勉強は好きですか	68.3	58.3	66.1	59.8
(62)	国語の勉強は大切だと思いますか	94.2	91.3	92.4	89.1
(63)	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.8	80.7	79.5	74.1
(64)	読書は好きですか	76.2	74.6	67.6	69.9
(71)	算数・数学の勉強は好きですか	70.6	66.0	55.3	56.0
(72)	算数・数学の勉強は大切だと思いますか	94.6	91.3	84.8	80.5
(73)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	82.2	80.2	71.5	69.4

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(64) 読書は好きですか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない



(4) 学校生活

「学校に行くのは楽しいと思いますか」で、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた小中学生は、全国平均を上回った。特に小学生は昨年度よりも僅かだが増加した。小中学生とも8割以上が、学校に行くのを楽しんでいることが分かる。非常によい傾向である。

市内の小中学校は、「学級のきまりを友達同士で話し合っていて決めている」学校が、全国平均よりも高く、児童・生徒の考えを反映した学級経営がなされていることがうかがえる。

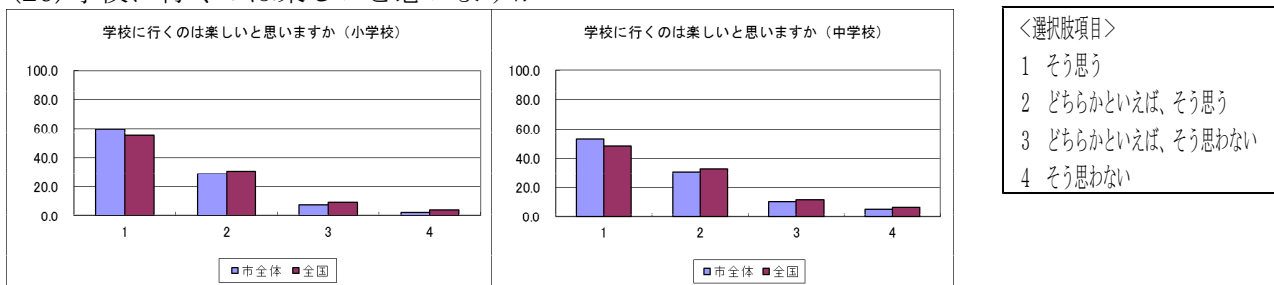
「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったこと」で、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた小中学生は、どちらも87%を超えており、全国平均よりも高い数値であった。ここ数年、中学生は全国平均よりも高い結果となっており、子ども未来プロジェクトで推進している、「クラス対抗の行事に積極的に取り組もう」による取組の成果の現れであると考えられる。

本市の小中学生の学校生活についてのよい傾向は、過去6年間継続されてきている。多くの児童生徒は、友達と協力しながら、楽しい学校生活を送っていることが分かった。今後も望ましい人間関係の育成と、安らぎのある学級経営に努めていくことが望まれる。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(26)	学校に行くのは楽しいと思いますか	89.4	86.4	83.9	81.4
(29)	あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っていて学級のきまりなどを決めていると思いますか	84.4	81.8	87.8	78.4
(31)	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	87.7	86.3	87.0	84.2

※数値は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(26) 学校に行くのは楽しいと思いますか



(5) 家庭でのコミュニケーション

「学校での出来事について話をしますか」は、小中学生ともに全国平均を上回る結果となった。授業参観や運動会、文化祭などの学校行事に積極的に参加している家庭が多いことや、学校・学年・学級だよりなどの発行もその一因と考えられる。

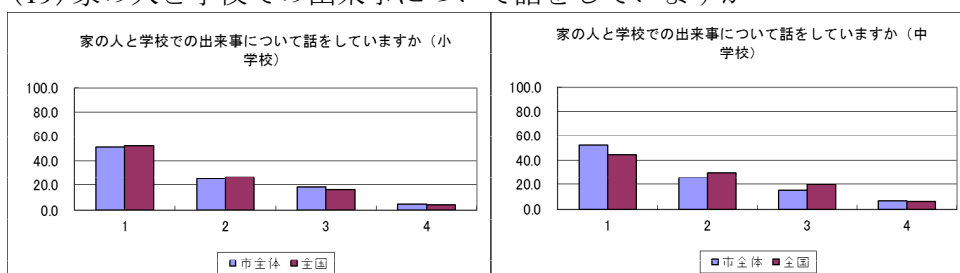
また「家の手伝いをしていますか」では、小学生は全国平均より4ポイント以上上回ったが、中学生は全国平均と同程度だった。中学生になると勉強や部活動等で忙しい生活を送っていると考えられるが、家族の中での役割を考えさせ、家族の一員としての自覚の醸成が必要と考えられる。

今後もファミリエ下野市民運動の「家庭では子どもに話しかけよう！」を実践して
いけるように、家庭への啓発を継続して行うことが望まれる。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(19)	家の人と学校での出来事について話をしていますか	82.1	79.5	77.8	74.1
(20)	家の手伝いをしていますか	87.1	82.8	67.3	67.2

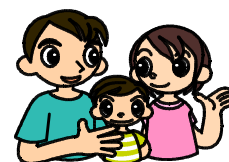
※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(19) 家の人と学校での出来事について話をしていますか



＜選択肢項目＞

- 1 している
- 2 どちらかといえばしている
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない



(6) 自尊意識、将来に関する意識

「自分には、よいところがあると思いますか」は、小学生が全国平均を上回ったものの、昨年度より4ポイント低くなった。中学生は昨年度より2ポイント近く上昇した。「将来の夢や目標を持っていますか」においても、小中学生とも全国平均を上回り、本市の小中学生が、将来に夢を持って生活できていることが本年度も確認できた。

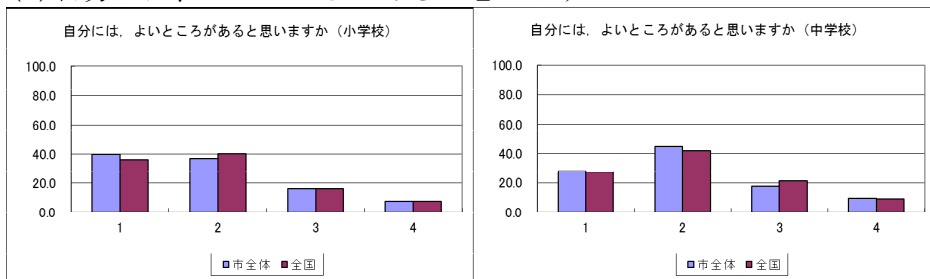
しかし「友達の前で自分の意見を発表すること」では小中学生ともに全国平均を下回った。「友達の意見を最後まで聞くこと」についても中学校では全国平均を若干下回った。後述(9)学習状況にもあるが、本市ではグループ活動や話し合い活動が盛んに行われている。今後はより一層、ねらいを明確にした話し合い活動を展開することや、発言が認められ、自分に自信をもって活動できるような授業にすること等が必要である。

また将来に夢をもつためには、発達段階に応じた適切なキャリア教育を充実させることが大切である。今後も各校の特色を生かし、小中一貫したキャリア教育を推進していけるように小中の連携を推進していく必要がある。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(6)	自分には、よいところがあると思いますか	76.6	76.3	72.7	69.3
(7)	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	50.4	51.7	43.7	50.2
(8)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	94.6	92.7	92.7	93.0
(9)	将来の夢や目標を持っていますか	87.6	85.3	74.2	71.1

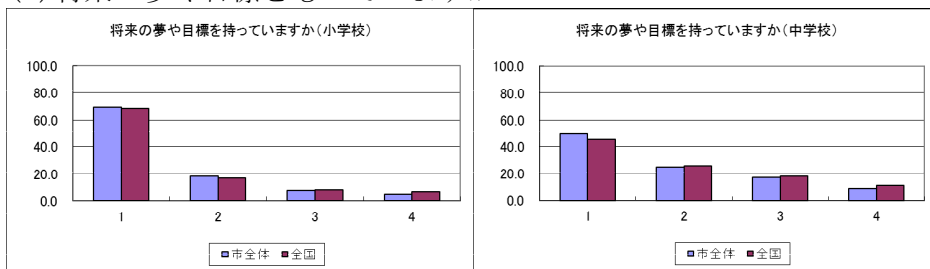
※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(6) 自分には、よいところがあると思いますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(9) 将来の夢や目標をもっていますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(7) 規範意識等

「学校のきまりを守っているか」では、昨年度、全国平均を下回る結果だった小学生は、本年度は僅かだが上回った。また「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と理解している割合についても、全国平均を上回り、昨年度よりも1.5ポイント高くなった。中学生は、どちらの項目も全国平均と同等また上回る結果となった。

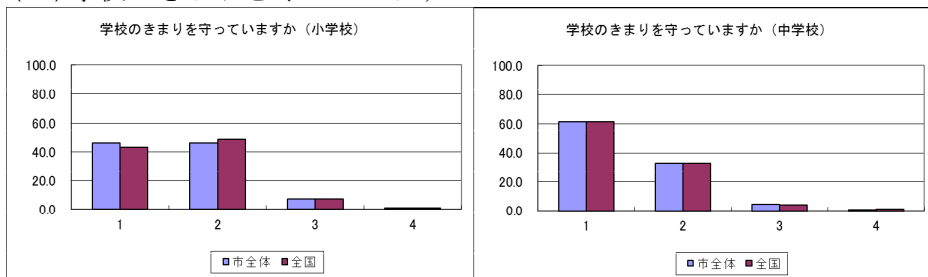
本市の中学生は、過去の調査からも継続して規範意識が高い状況がうかがえる。これは、繰り返し規範意識などについて指導してきた成果と言える。その成果は落ち着いた学校生活、学習に集中できる環境が作られていることにつながっている。

今後も、規範意識を高めるために、小学校の低学年の段階から、道徳教育を要として、発達段階に応じた、きまりの大切さ等を体験に基づいて指導していただきたい。特にいじめについては「絶対にやってはいけないこと」を学校全体で継続して指導していただきたい。さらに、学校および学級での学業指導を充実させ、学びに向かう集団をつくり、学力の向上につなげるという、プラスのサイクルを構築していけるように努めていただきたい。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(39)	学校のきまり(規則)を守っていますか	91.8	91.5	94.7	94.7
(42)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.5	96.6	94.6	93.6

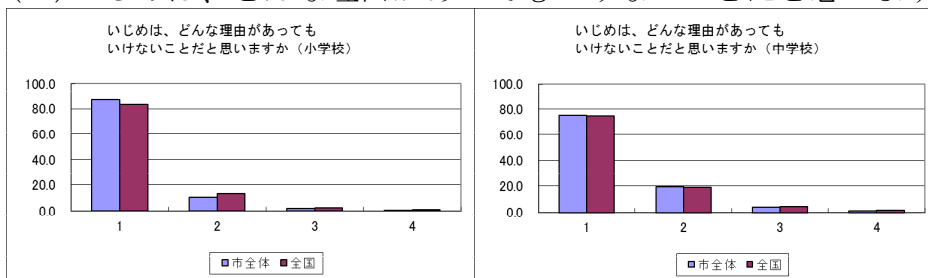
※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(39) 学校のきまりを守っていますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(42) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



- 〈選択肢項目〉
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(8) 地域との関わり、社会に対する興味・関心

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、昨年度と同様に、参加している小学生は全国平均を上回っているが、中学生は全国平均をわずかながら下回った。「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」についても、小学生が昨年度より3.5ポイント高くなり、中学生では、昨年度より9ポイント近く高くなった。

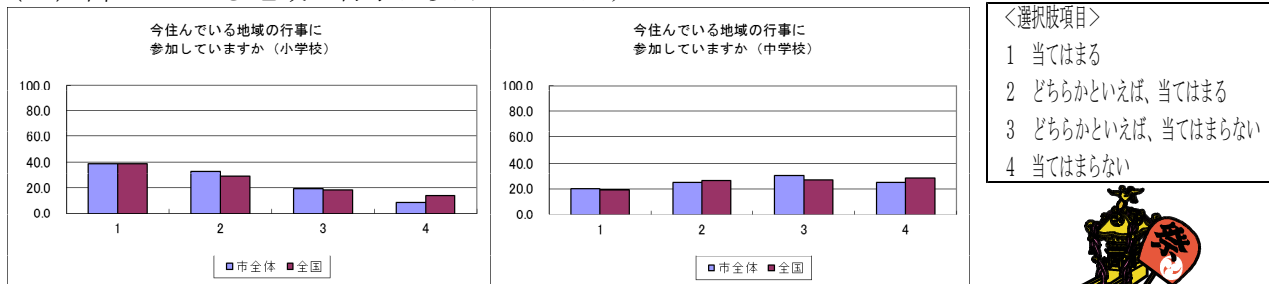
しかし「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」については小学生、中学生ともに全国平均を下回る結果となった。特に中学生では全国平均と11ポイント以上の差が見られた。「子ども未来プロジェクト」の活動は定着してきていると思われるが、それ以外の活動にも積極的に参加する意識を育てる必要がある。また、子ども未来プロジェクトの活動の一つとして「エコプロジェクト」にも取り組んでいる。そのような活動を実践していくことで、地域のために何をすべきかを主体的に考えられるようになっていくと思われる。

子ども達が「自分たちの住んでいる下野市」に関心と誇りをもち、よりよい社会生活を送ろうとする意識をしっかりと育てていくためには、子どもたちが地域に参画できるように、土曜日等に行われる学校・家庭・地域社会が連携した行事や活動に積極的に参加するよう啓発を行っていく必要がある。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(34)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	72.2	67.9	45.0	45.2
(35)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	75.8	70.6	68.1	65.8
(36)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	59.2	60.7	58.7	70.2

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(34) 今住んでいる地域の行事に参加していますか



- <選択肢項目>
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない



(9) 学習状況

学習状況に関するほとんどの項目において、小中学生とも全国平均値を上回る結果となった。特に中学校での「話し合い活動」の実施については全国平均より15ポイント以上高い項目もあり、昨年度に引き続き良好な結果となった。

「授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」「ノートには学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」についても、昨年度に引き続き小中学校ともに全国平均を上回った。特に中学校では、この3つの項目の値が大きく上昇しており、「何ができるようになるか」という授業のねらいが意識され、振り返りによって「何を学んだのか」を子どもたちが振り返って確認できる授業になってきていると捉えることができる。今後も更なる学習内容の定着を図る振り返りの活動の工夫が必要であるといえる。

本市は、自分の考えを発表したり、友達と意見を交換し合ったりする活動を授業に取り入れている学校がほとんどであり、児童生徒もそれを実感しながら学習している。「どのように学ぶのか」も意識して、今後も小中一貫した学習の充実を図っていく必要がある。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(45)	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか	88.6	83.2	77.7	72.8
(46)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	69.4	65.4	69.5	57.7
(48)	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	84.9	85.1	86.2	84.1
(49)	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	84.4	83.4	93.2	77.8
(50)	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	78.1	75.7	77.3	69.3
(53)	授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	91.9	87.6	92.9	84.9
(54)	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	80.8	76.1	72.1	63.1
(55)	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	90.7	87.9	80.3	76.8

(57)	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか*	44.7	39.3	43.1	37.0
(58)	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか*	46.6	45.0	41.0	37.0
(59)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	70.2	68.3	73.8	64.8

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計。
ただし*をつけた(57)(58)は「どちらかといえば思わない」「思わない」の合計。

(10) 達成感、挑戦

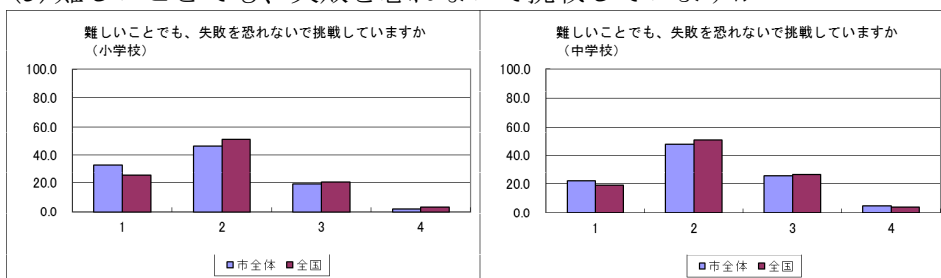
「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」は、小中学生ともに全国平均を上回っていた。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」では、中学生がわずかに全国平均を下回り、昨年度の数値も若干下回った。

達成感や挑戦は、学力の向上にとって重要な項目である。今後とも、全教育活動の中で、適度な設定目標に挑戦する機会を与え、努力して達成する経験を積ませることにより、失敗を恐れずに挑戦することができる児童生徒を育てていけるように、教職員の支援を工夫する必要がある。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(4)	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	95.6	94.4	95.1	94.3
(5)	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	78.9	76.1	69.5	69.6

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(5) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(11) その他

「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した割合が、小学生で約48%、中学生で約32%と全国平均よりも高く、本市の小中学生は必要のない携帯電話やスマートフォンは所持しないようにしているといえる。携帯電話等の使用時間についても全国平均に比べて少ない結果となっている。

本市では今年度、子ども未来プロジェクトの活動として、情報機器を安心・安全に利用するためのルールを「ネット利用の当たり前!『4つの大丈夫』」として策定し、リーフレットにまとめた。スマートフォンの今後の所持率の上昇が予想されるため、リーフレットを活用し、保護者とも協力してフィルタリングやペアレンタルコントロールの設定を啓発するなどの情報モラル教育の系統的な指導を行い、子どもたちを様々なネットトラブルから守る必要がある。

「読書の時間」は1日当たり30分以上の児童生徒が全国平均を上回っており、良好な結果となっている。(3)で述べたように本に親しむ活動を設定していくことが課題である。

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」は、小学生が全国平均を上回ったものの、中学生は全国平均と同程度であった。中学生は依然として5割を下回っており、自分で考えた学習が組み立てられるように、計画の立て方を含め、さらに指導および支援を継続していく必要がある。

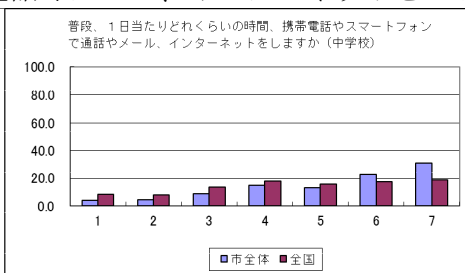
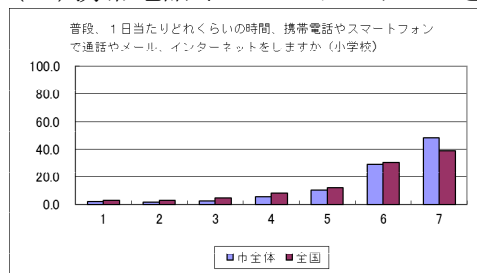
「新聞を読む」や「インターネットでニュースを見る」は小中学生とも全国平均を上回っており、情報に対する関心は良好であると言える。

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、小中学生ともに全国平均を上回った。この2つの質問には、昨年度に引き続き小中学生ともほぼ90%が肯定的な回答をしている。今後も道德の時間を中心に、体験活動等を取り入れた実感をもたせる指導の充実に努め、豊かな心を育てていただきたい。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(13)	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか *「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」の合計	6.5	10.4	17.6	30.1
(17)	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか *「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」「30分上、1時間間より少ない」の合計	41.2	36.5	28.5	28.2
(21)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	64.4	62.2	48.5	48.4
(37)	新聞を読んでいますか *「ほとんど、または、全く読まない」以外	53.4	45.2	45.6	36.0
(38)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか	87.5	86.4	87.8	87.4
(43)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.0	93.8	93.1	92.8

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「している」「どちらかといえば、している」の合計

(13) 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか



<選択肢項目>

- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 30分以上、1時間より少ない
- 6 30分より少ない
- 7 携帯電話やスマートフォンを持っていない